

平成22年度 島根大学「萌芽研究部門」研究プロジェクト 計画書

1. プロジェクト名称	「出雲国」成立過程における地域圏の形成と展開に関する総合的研究													
	(英訳名)	Integrated research on approval process in “Izumo-no-kuni”												
2. プロジェクトリーダー	所属	法文学部社会文化学科	職名	教授	氏名	大橋泰夫								
	現在の専門	日本考古学			学位	博士(文学)								
<p><b>3. プロジェクトの概要</b> ①本研究プロジェクトで何をどこまで明らかにするか、②当該分野の国内外の研究と比較して本プロジェクトのユニーク性・重要性・先見性、③島根大学で行う意義・大学の発展にとって期待される効果、について簡潔に記入してください。</p> <p>① 本研究プロジェクトの目的 本研究は、『出雲国風土記』に記述される地域的なまとまりが行政的に成立するに至る過程を、考古学および文献史学の史資料をふまえて通時的かつ実証的に把握しようとするものであり、地域というまとまりがどのようにして、いかなる背景をもとに形成され、展開したのか、そのメカニズムを探ることを目的とする。あわせて、出雲の成立や古代出雲にたいする認識が、古代から現代に至るまでそれぞれの時代や社会のなかでどのように形成され、変遷してきたのかを明らかにし、古代出雲の姿を多角的に説明することをめざす。</p> <p>② 本プロジェクトの特色 古代出雲についての認識は、『出雲国風土記』の存在や『記紀』にみる出雲系神話の豊富さに垣間見えるが、いっぽうで出雲を特別視する傾向もあり、じつに様々かつ独特の「出雲像」や「出雲古代史観」が生み出されている。本プロジェクトは、こうしたイメージにたいして、あくまでも実証的なデータをもとに、通時的に出雲にみる地域的特質を抽出・考察しようとするものである。また、地域という認識を考古学と文献の双方からアプローチしうるのは、出雲の資料的特性であり、本研究が有する最大の利点でもある。</p> <p>③ 意義と期待される効果 本研究は、文献史料と考古学資料を豊富に持ち合わせている出雲地域の特色をふまえた論題であり、地域にみあった研究課題と位置づけうる。そのうえで、古代出雲の虚像と実像を明確に識別し、科学的に裏づけられた歴史像を提示することは、他地域を素材とするより大きなインパクトがあり、より豊かな歴史認識を育む素地をつくるうえでも重要な意義がある。また、実証的な研究を推進するには、史資料の実査は不可欠である。そうした史資料のなかには、『出雲風土記抄』をはじめ島根大学所蔵資料も含まれており、歴史文化遺産の持続的保存・活用を促進しうるのは、地域貢献という点でも資するところが大きい。</p>														
<p><b>4. 本学の大学憲章・中期目標・計画またはアクションプランとの関係</b></p> <p>本研究は古代出雲を対象とする点で、島根大学憲章「2. 特色ある地域課題に立脚した国際的水準の研究推進」に合致する研究課題である(アクションプラン2-②b)。また、研究過程で推進する発掘調査や史資料調査は、地域における教育・研究資源を生み出すものであり、憲章「3. 地域問題の解決に向けた社会貢献活動の推進」とも密接にかかわる(アクションプラン3-⑤)。これらは、中期目標I-2-(1)-①・I-3-(1)-②、中期計画I-2-(1)、I-3-(1)に沿ったものである。</p>														
<p><b>5. 各年度の計画の概要</b> 年度ごとに何をどこまで明らかにするのかを簡潔に書いてください。</p> <p>H22年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「古代出雲」に関連する考古学資料・文献史料の現状確認</li> <li>「古代出雲」に関連する考古学資料・文献史料の資料化着手</li> <li>「出雲国」成立にかかわる重要遺跡のフィールド調査</li> </ol> <p>H23年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「古代出雲」に関連する考古学資料・文献史料の資料化継続</li> <li>「出雲国」成立にかかわる重要遺跡のフィールド調査継続</li> <li>研究成果の公表・普及啓発</li> </ol>														
<p><b>6. 配分経費</b> (単位:千円)23年度は22年度と同額をカッコ内に記入して下さい。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成(年度)</th> <th>22</th> <th>23</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配分予定額(千円)</td> <td>2000</td> <td>( 2000 )</td> <td>( 4000 )</td> </tr> </tbody> </table>							平成(年度)	22	23	合計	配分予定額(千円)	2000	( 2000 )	( 4000 )
平成(年度)	22	23	合計											
配分予定額(千円)	2000	( 2000 )	( 4000 )											

## 7. 平成22年度の研究計画および達成目標

【研究項目】 研究項目には①,②,・・・の様に番号をつけて箇条書きしてください。

- ① 先史から古代を射程に、プロジェクト推進担当者が分担、古代出雲に関連する史資料の現状についての確認作業実施。
- ② 史資料の閲覧・資料化を開始し、データの収集を可能な限り進める。
- ③ 考古学的フィールド調査の対象として、松江市朝酌町所在の廻原1号墳をとりあげる。
- ④ 上記の廻原1号墳周辺の遺跡の状況について再確認する。あわせて、分布調査等で得られた資料や考古学研究室所蔵資料についても整理する。また、関連遺跡との比較研究を進める。
- ⑤ ミュージアムと連携して、成果を広く市民・研究者に普及する。

【達成目標】 対応する研究項目に対して第三者が本年度に達成できたと判断できる具体的な目標を記入してください。

- ① 作業分担一覧表ならびに年間予定表の作成
- ② 史資料データベース・リストの作成
- ③ 測量調査報告の作成
- ④ 測量調査報告に成果を併載
- ⑤ 公開講座の開催  
HPによる情報の発信

## 8. プロジェクト推進担当者 平成22年度に限って記入してください。

計 5 名

ふりがな(ローマ字) 氏 名(年齢)	所属部局(専攻など)・職名	現在の専門 学位	役割分担
(プロジェクトリーダー) おおはし やすお(OHASHI Yasuo) 大橋 泰夫(50)	法文学部社会文化学科・教授	歴史考古学・博士(文学)	研究総括
おびなた かつみ(OBINATA Katsumi) 大日方克己(52)	法文学部社会文化学科・教授	日本史学・博士(史学)	文献史的検討
やまだ やすひろ(YAMADA Yasuhiro) 山田 康弘(43)	法文学部社会文化学科・教授	考古学・博士(文学)	考古学的検討
えげ かずひろ(EGE Kazuhiro) 会下 和宏(40)	ミュージアム・准教授	博物館学・考古学・ 学士(文学)	考古学的検討・普及啓発
いわもと たかし(IWAMOTO Takashi) 岩本 崇(35) (共同研究者)	法文学部社会文化学科・准教授	考古学・博士(文学)	考古学的検討
かくた のりゆき(KAKUDA Noriyuki) 角田 徳幸(47)	島根県教育庁文化財課古代文化 センター・専門研究員	考古学・学士(文学)	考古学的検討

**9. 平成22年度経費明細** 研究項目と達成目標ごとに使用する経費を記入してください。(単位:千円)

・経費は本研究プロジェクトの遂行に必要な経費です。

・経費は政策的配分経費(a)(今回配分された金額)とそれ以外の資金(学内経費、外部資金)とし、それ以外の資金で充当させる場合は「配分経費以外(b)」の欄に金額を記入してください。

・研究計画の項目番号ごとに設備備品、旅費、謝金、消耗品費などに分けて、それぞれの明細を出来るだけ具体的に記入してください。

・単品の設備備品は配分経費(a)と配分経費以外(b)を合算して購入することはできませんのでご注意ください。

事項(品名)	(対応する研究項目番号)	配分経費(a)	配分経費以外(b)	合計(a+b)
<b>設備備品</b>				
図書	②~④	200	0	200
<b>消耗品費</b>				
事務用品	①~⑤	100	0	100
現地調査用品	③	200	0	200
写真関連用品	③・④	200	0	200
PCソフト	②	100	0	100
<b>旅費</b>				
史資料調査	①・②・④	500	0	500
<b>その他</b>				
レンタカー代	③	300	0	300
簡易トイレ借用	③	100	0	100
謝金	③	130	0	200
印刷費	⑤	100	0	100
写真撮影・複写費	②	70	0	70
<b>合計</b>		2000	0	2000

**10. 研究の概念図** 研究の目的、計画、効果、研究期間終了後の成果の活用、展望などをわかりやすく示す図を貼り付けて下さい。

